

～園庭の魅力～

職員が思う園庭の魅力を紹介します

松の森とどんぐり山

松の森の散歩道



これは松の森の散歩道です。子どもたちはキラキラ輝いた目をしてどんぐりや松ぼっくりを探しています。また、運動会では年長組がクロスカントリーで走る道になり、寒い冬では、マラソンコースとなって走って体を温めています。

どんぐり山

ここはどんぐり山です。下から上に上がるのに、ロープを使ったり、はしごを使ったりして上まで登っています。ロープを掴む握力を使い全身の成長を支えています。



松の森に行くと、大人も夢中になるぐらい、あっという間に時間が過ぎてしまいます。松の森では5種類のどんぐりが拾えます。どんぐりを集め終わった後、子どもたちと「どのどんぐりかな？」と図鑑で見比べてみたり、「くりも落ちていたよ」と話し合ったりと、毎日いろんな発見でいっぱいです。

以上、すみれ組担任、須藤琉のおすすめする園庭の魅力でした。

園庭推進チーム
～園庭の魅力～

ようちえんの秋の自然物



明德幼稚園の秋はたくさんの自然に囲まれます。園庭で遊んでいると、風に吹かれてきたイチョウの葉が飛んでいく様子を見て「うわ～！」と歓声をあげて喜んだり、箒で落ち葉を集めて山を作り、その上に乗ったり、両手いっぱい抱えて、落ち葉の吹雪をしたりと楽しんでいます。

また、松の森でも、先月同様に楽しみながら遊んでいます。どんぐりがたくさん落ちており、さらに栗も歩きたびに「あ！あった！」とみつけ、喜んでいる子どもたち。栗がチクチクしていて触ることが難しい子は、木の枝で突っついて「みて～！」と、嬉しそうです。

集めた木の実は、お部屋の製作活動で使い、一人ひとり個性あふれる作品が出来上がっています。どんぐりを観察していると「虫がでてきた～！」と秋の自然を通してたくさんの発見をしている子どもたち。移り変わる季節を子どもたちと見たり、肌で感じたりと、明德幼稚園は魅力で溢れています☆これから気温も下がっていきますが、冬も子どもたちと楽しみながら、園庭の魅力や活動などお届けしていきます。

以上、つくし組担任、河野愛里のおすすめする園庭の魅力でした。



園庭推進チーム ～園庭の魅力～

ようちえんの畑と田んぼ

明德幼稚園の園庭には、畑と田んぼがあります。この畑と田んぼは、今までにたくさんの種類の野菜やお米などを育て、収穫を行ってきました。

今までに明德幼稚園で育てている食べ物リスト

畑：きゅうり とまと 枝豆 じゃがいも にんじん さつまいも かぶ そら豆 など

田んぼ：お米



となっています。苗植えや種まき、田植えをしてから、水をあげたり、雑草を抜いたりして大切に生長を見守りながら、収穫を楽しみにしています。また、じっくりと観察したり、図鑑をみたりすることで興味が深まります。育てているものに寄ってきた虫や生き物に触れる機会もあり、畑や田んぼを通して、さまざまな出会いや発見があります。近隣の幼稚園にはない、明德ならではの園庭環境の中で子どもたちは過ごしています。

収穫した食べ物を食べたことなかったり苦手なものだったりしても、自分たちで育ててきたから食べてみよう、友だちと一緒に食べてみると「おいしい！」と食べられるようになるきっかけになります。実際に「幼稚園で食べたから家でも食べたい」とご家庭に帰ったお子様が話したり、「幼稚園でまた食べたい」と保育者に言ったりして、野菜やお米を育て、自分で食すという過程を大切にしながら食育に繋げていきます。

以上、ほし組担任、鈴木七海のおすすめする園庭の魅力でした。

園庭推進チーム
～園庭の魅力～

山の園庭の古墳って知ってる?!



山の園庭には斜面があったり、古墳（築山）があったりと、子どもたちが全力で体を動かして「やってみよう」と意欲的な姿がみられます。その中でも私は、古墳（築山）がとても好きで、子どもたちはくねくねの斜面を登り、山のとっぺんに到着します。昇り降りを楽しむだけではなく、山の上にはおばけやおかみがいると言い、一生懸命に登りながら戦いごっこをする姿があります。また、遊園地に見立て、落ちている葉っぱやどんぐりをチケットにし、くねくねの斜面はアトラクションに並んでいるかのようにみんなで並び「ちょっと進んだよ!」とやりとりをしながら遊園地ごっこをして遊んでいます。このように遊びながら（心・体）が育っていきます。

斜面の昇り降りを遊びで取り入れることで、筋力やバランス感覚が養われていきます!

園庭にはたくさんの自然物があり、子どもにとらえ方でチケットやままごとの料理の素材になり子どもたちの発想はとても豊かだと感じます。このような自然豊かな環境の中で子どもたちと、どのようにかわるのか考えながら保育することがとても楽しいです。

以上、くるみ組担任、藍袖佳のおすすめする園庭の魅力でした。

冬の遊びは発見がいっぱい

寒い日でも子どもたちは元気いっぱい園庭で遊んでいます。冬だからこそ、面白いことがたくさんあるなと感じているはずの子どもたち。そんな気づきを楽しく過ごしてたくさん持ち帰って、もらえたら嬉しいです。子どもたちは、室内から園庭に出るとまず、霜柱や氷ができているかどうかを確認しています。そして、氷を見て「わーきれい」と言っている子や、氷を割り、音を楽しむ子などさまざまです。また、寒い日には焚火をして暖まっています。「あー、あったかいね」とみんなでほっこりしながら過ごしています。

みなさんは冬の景色はどのようなものを思い浮かべますか？歩くとサクサク音のする霜柱。ガラスのように透き通っている氷。ピューと吹く冷たい風。普段生活しているとあまり気にしないことでも子どもたちは常日頃から発見や驚きがたくさん。お家でもお子様のつぶやきに耳を傾けてみてくださいね。



先日は雪が降り、子どもたちは目をキラキラさせながら「わー雪だ！」と、とても嬉しそうでした。「冷たい」と言いながらも嬉しそうに雪を触ったり、かき氷屋さんをしたりととても楽しんでいました。以上、もも組担任、藤原美希がおすすめする冬の園庭の魅力でした。。



山の園庭＜夏の水遊び！＞

この時期の山の園庭では暑さ負けなくらい水遊びが盛り上がっています！

そんな水遊びの様子を紹介していきます。

いくつかタライに水が張っており、そこで「パシャパシャ」。それだけでも気持ちよさそうな笑顔が園庭に溢れていますが、水を恐れない子の中には自らバケツに水をすくい頭から浴びる強者まで現れました！

保育者によるミストシャワーで園庭に「優しい雨」が降ることも。それに気づいた子どもたちは「雨だー！」と近づきながら全身で浴びに行く子、中に水を溜めるためバケツやカップを持って近づいてくる子。と子どもたちの反応は様々です。

水遊びが少し苦手な子どもたちも、くるみ組さんがお世話をしている「おくら」「ピーマン」にじょうろで水をあげたり、個々のペースで楽しんでいます。

また食紅で作った色水で色を混ぜてみたり氷を使って溶けていく様子や感触を感じたりいろいろな素材も使いながら水遊びを満喫しています。



以上、どんぐり組担任米村美佳のおすすめする園庭の魅力でした。

園庭推進チーム ～園庭の魅力～

園庭推進チームでは、職員が思う園庭の魅力を紹介していきます。

好きな遊びを見つける楽しさ

私は幼少期、明德幼稚園に通い、この広い芝生でたくさん走っていました。鬼ごっこをしたり、リレーをしたりとにかく思いきり友だちと戸外で遊ぶのが大好きでした。

職員として戻ってきて、子どもたちとこの広い芝生の上で鬼ごっこしたり、リレーをしたりすることは、私にとって幼少期に戻れたような気持ちになりとても嬉しいことです。その他にも、ボールを使ったりダンスを踊ったり、だるまさんがころんだをしたりとこの広い芝生だからこそ場所を定めずに、子どもたちが自由にやりたいと思った瞬間にその遊びができることも、園庭の魅力だと感じています。



また、私が今、子どもたちで行いたい遊びがあります。それは泥だんご作りです。幼少期に泥だんご作りが大好きで、砂場に足を運んでは、泥団子を丸めていました。丸めては崩れてをくり返しながら何度も行い、次の日までとっておき前日の続きをするなど、とにかく磨きをかけていました。

保育者が一生懸命、泥団子を丸めていると一緒に見よう見まねでやっている姿がみられました。力加減が難しく、すぐに崩れてしまう子もいましたが、保育者の横で何度もくり返し時間をかけて作っていました。そんな子どもたちと一緒にいろいろな泥団子の磨き方を見つけていけたらいいなと思っています。大人目線からは気付くことのできない子どもたちからの新たな目線やこうしたらもっと良くなるなど考えを伝えあいながら、一つのことに夢中になり、大人になっても幼稚園での楽しかった遊びや思い出に繋がっていけるように私自身が日々の保育を楽しんでいきたいと考えています。

以上、つくし組担任濱谷優羽のおすすめする園庭の魅力でした。